

# 広報 ふたば



## やっぱりわが町、 双葉町

### 目次

- |     |         |     |           |
|-----|---------|-----|-----------|
| P 2 | 特集      | P10 | 教育長メッセージ  |
| P 6 | 町民の皆さまへ | P11 | ふたば幼稚園だより |
| P 7 | 町の話     | P18 | トピックス     |

# やっぱりわが町、双葉町。

## ふるさとの息吹を感じる、新しい日常のカタチ



ただいま、ふるさと！  
双葉町での暮らしを語る

3年前の避難指示解除から多くの方が双葉町での生活を再開しました。今回は、町内で暮らす皆さんにお集まりいただき、帰還した経緯や現在の暮らし、そして双葉町への思いなどを語っていただきました。

(高橋) 役場秘書広報課の高橋です。本日はお集まりいただきありがとうございます。昨年9月に自宅を再建し、町内に住んでいます。皆さんの双葉町での暮らしについてお聞かせください。

(國分) 國分です。以前は越田に住んでいました。今は駅西の復興住宅に入居しています。家の解体はこれからですが、ゆっくり進めようと思っています。

(伊澤) 伊澤です。双葉中学校の南側に平屋を建て、

令和5年10月に戻ってきました。

(加藤) ふたばプロジェクトの復興支援員・加藤です。実家は山田地区ですが、今は町内のアパートに住んでいます。

(佐藤) 役場総務課の佐藤です。震災前は三字の目迫に住んでいました。私も今は町内のアパートで暮らしています。

### ふるさとへ

#### 戻るきっかけ

(高橋) 皆さんが双葉町へ帰ってこようと決めたきっかけをお聞かせください。

(國分) 私は、いわき市の勿来で避難生活を送っていたのですが、避難指示が解除されたら率先して戻ろうと決めました。勿来の方々の交流も深く、名残惜しい気持ちもありましたが、やはりふるさとですからね。

(伊澤) 私は、帰還が始まる2年前から町の状況を見ていましたので、戻ることには戸惑いはありませんでした。むしろ、帰ってきてから「夜空はこんなに星がきれいだったんだな」と改めて気付かされたくらいです。

(加藤) 私は仕事がかきつけです。仕事を通して双葉町に貢献したいと考えていました。最初は隣の浪江町から通っていましたが、双葉町にアパートができたタイミングで引っ越そうとしたら満室で。1年後に空きが出て、ようやく入居できました。

(佐藤) 私は小学校4年生で被災したのですと双葉町に戻って来たいと思っていました。

ただ、子どもだったので当時は双葉の状況が全くわからないながらも、復興させたいと思って町で生活をはじめました。

## 今回 ご参加いただいた皆さま



國分 信一さん

駅西住宅管理組合会長

双葉町の駅西住宅といわき市勿来を忙しく行き来する日々。今も昔も郡山海岸で風に吹かれながら見る、海の景色がお気に入り。



伊澤 郁夫さん

目迫組長

スポーツは観戦もプレーもどちらも好き。特に野球。

双葉に生活を戻してから、夜空の星の美しさに改めて気がつきました。



佐藤 葉月さん

双葉町役場職員

震災後、町に帰還することを希望していました。

今の夢は震災前に住んでいた場所に戻る事。

小中学校時代に打ち込んだソフトテニスをまたやりたいと思っています。



加藤 奈緒さん

双葉町復興支援員

復興支援員の仕事を通してふるさと・双葉町に貢献したいと思っています。

最近はカメラも好きになりましたが、スポーツが大好き。

### 双葉町での新たな日常

(高橋) 実際に戻ってきてからの生活はいかがですか。楽しみや、新しく発見したことなどがあれば教えてください。

(伊澤) 再建した自宅を家族や親戚が「キャンプ場ができた」と喜んで集まってくれるのが嬉しいです。多い時は26人で賑わいます。ここがみんなの笑顔が集まる場所になったこと、それが帰還した一番の価値だと感じています。

(國分) 勿来での経験を生かして、防災活動や語り部、地域の花植え活動など、色々なことに声をかけていただき、忙しくも充実した毎日です。

(加藤) 避難先で出会った方が実は親戚だったり、町内で働かなければ知らなかったことだらけで、今だからこそ、分かったことが多くあるので、町に住んで

良かったと思っています。

(佐藤) 私は役場に勤めているので、特に町の復興に携わる仕事に関われることが嬉しいですね。子どもの頃の記憶しかないのですが、町のことを話すということが新鮮な気持ちです。

(高橋) 帰還して改めて町の自然の魅力を感じたという声も聞きます。

(國分) やっぱり海ですね。ぼーっと眺めているだけで、余計なことを考えずに心がすつきります。

(伊澤) 私も海に行きます。山の緑も豊かですが、海の景色は特別ですね。

(佐藤) 私は逆に山派ですね。実家があった目迫のお墓のあたりから町全体を眺めるのが好きで、落ち着きます。



## これからの双葉町に

### 望むこと

(高橋) これから双葉町に「こんなものがあつたらいいな」「こうなつたら嬉しいな」という希望はありますか？

(佐藤) 切実に欲しいのは歯医者さんですね。あとは、夜に帰宅する時、もう少し街灯が増えると安心です。

(伊澤) 床屋さん、気軽に立ち寄れる飲食店がもっと増えると嬉しいですね。

(加藤) 子どもたちが遊べるような、地形を生かしたアドベンチャー施設みたいなものがあつたら、町に立ち寄るきっかけになるかもしれません。

(伊澤) 年齢を問わず、みんなが気軽に集まって汗を流せる屋根付きの多目的広場のような場所があるといいですね。

(高橋) 町では帰還に向けて色々と支援策を用意していますが、皆さん活用はされましたか。

(伊澤) 住宅の再建に金銭的な支援を受けることができたので、とても助かりました。

(佐藤) 双葉町内に家を建てたいと考えている人にとっては各種の支援策があるのはありがたいですね。

(國分) こういった支援策は本当にありがたいです。

## やっぱり双葉はいいね

(高橋) 最後に「町に戻ってきて良かった」と感じる点を教えてください。

(國分) とにかく静かで、のんびりできます。都会の喧騒から離れて、ゆったりとした時間を過ごせるのがいいですね。

(伊澤) 町が少しずつ変わっていく様子を日々感じながら、季節の移ろいを穏やかに眺める。そんな当たり前の日常が、今はとても楽しいです。

(佐藤) 「双葉町ってほっとするよね」という感覚が一番です。

ね。色々な場所で暮らしましたが、やっぱりここが自分の居場所なんだなと感じます。

(加藤) 震災前は当たり前だった人との繋がりが、一度離れたからこそ、より温かく大切なものだと感じられるようになりました。

(高橋) 私も、いわきにいる時は時間に追われる感覚がありました。ここに戻ってくると不思議と心が落ち着きます。鳥のさえずりや虫の声、車の音でさえ、どこか懐かしく感じますね。

1時間半ほどの短い時間でしたが、それぞれの生活の中で感じる双葉町の良さや、未来への希望が語られました。

ふるさとで暮らす喜びを噛み締めている様子が印象的でした。



## 町へ帰還される方向けの支援策を紹介します

双葉町では帰還に向けた経済的負担を軽減するための各種支援策を用意しています。ぜひ、ご活用ください。



### 各種支援策の例

【問い合わせ先】 住民生活課 ☎0240-33-0126

#### ・ 帰還促進住宅支援事業補助金 最大800万円 ※新築の場合

避難されている町民が帰還するために新築住宅または中古住宅を取得した場合に福島県と共同で補助金を交付します。新築住宅、中古住宅で補助金額が異なります。賃貸を目的とする住宅は対象外です。

#### ・ 住宅修繕等支援事業 最大300万円

帰還される場合に限り長期にわたり維持管理ができず、損壊等の被害が生じた町内の住宅の修繕等に対して補助金を交付します。



#### ・ ふるさと帰還等支援事業補助金 最大15万円

震災当時の町内居住者が避難先住宅などから町内の自宅などに引っ越しをされた場合の費用に対して補助金を交付します。町外間での引っ越しや二地域居住の場合は対象外です。

#### ・ 住宅清掃費補助金 最大30万円

避難指示解除区域にある住宅を清掃するため、清掃業者に依頼した際に発生する費用を補助します。交付は1住宅1回限り。

#### ・ 被災者生活再建支援制度 最大300万円

家屋被害認定調査で「全壊」、「大規模半壊」などの判定により支援金額が変わります。解体前に家屋被害認定調査を受ける必要があります。

【問い合わせ先】 復興推進課 ☎0240-33-0127

#### ・ 双葉町民間賃貸住宅新築等促進事業 最大1億円

双葉町内に賃貸住宅を建設し、所有者となる法人または個人に事業補助金を交付します。用地取得費や建物本体、外構工事も補助の対象になります。



上記も含めてご不明な点がございましたら、枠内の問い合わせ先までお尋ねください。

## 町民の皆さまへ

今夏は、国内の歴代最高気温が何度も更新されるほど、想定外の暑さが続きました。9月に入っても暑い日が続き、涼しい季節が心から待ち遠しい今日この頃です。

特定復興再生拠点区域の避難指示解除から3年が経過しました。町内に居住される方が190人を超え、一歩ずつではありますが、町の復興が前進しております。

そのような中、8月1日には、双葉駅前を整備を進めてきた公設商業施設に「イオン双葉店」が開業しました。震災後初にして待望のスーパーマーケットであり、町内の生活環境が向上することはもとより、居住人口の増加に大きく寄与することを期待しております。さらに、来年春頃の開業を目指して整備を進めて

いる飲食店や商工会館との相乗効果により、双葉町駅東地区の商業が活性化し、町の賑わいにも弾みがつくものと信じてやみません。

また、同日一般国道井手長塚線・長塚跨線橋の開通式も行われました。町の東西をつなぐ重要な道路である復興シンボル軸のうち、長塚跨線橋が開通することで、交通の利便性や安全性を大きく向上させることのみならず、双葉町の復興を象徴する東西の架け橋となり、復興をさらに加速させる大きな一歩をしるしました。

8月4日から6日の3日間には、友好町である京都府京丹波町の中学生や高校生と、町立学校の中学生との交流事業を行いました。京丹波町と双葉町は、お互いの町を隔年で交互に訪問しながら、長く友好を育んでおり、今回は、畠中源一京丹波町長をはじめ、

松本和久教育長、澤井安子社会教育委員が来町されました。

開校式では、お互いに1年ぶりの再会を喜びあうとともに、京丹波町の生徒からの質問に対しては、私の町政に対する想いやまちづくりについて丁寧にお答えしました。今後とも、先人が築いたご縁を大切に京丹波町と交流したいと考えております。

残暑なお厳しき折です。町民の皆さまにはお身体に気を付けてお過ごしください。ますますようお願いいたします。

双葉町長 伊澤 史朗

## 福島県への要望活動

8月6日、双葉郡8町村でつくる双葉地方町村会と双葉地方町村議会議長会は福島県庁を訪れ、内堀知事と面会しました。今年度で第2期復興・創生期間が終了することから、さらなる復興加速化に向け、各種支援の充実を求める要望活動を行いました。

## 要望活動（抜粋）

- ・避難地域の復興に必要な財源の確保
- ・復興に向けた人員の確保
- ・双葉地方の地域医療提供体制等の再構築
- ・福島国際研究教育機構の整備と研究タウンまちづくりの推進



## 令和7年度 町政懇談会

町政全般について、町民の皆さまの率直なご意見やご要望等をお伺いし、今後のまちづくりに反映させるため下記のとおり「町政懇談会」の開催を予定しております。お近くの会場にご出席ください。

また、東京・新潟県柏崎市・宮城県仙台市の3会場については、これまで町民の皆さまからお寄せいただいている意見などを踏まえて、座談会方式による開催を予定しております。詳細な日程につきましては、広報ふたば10月号をご覧ください。

月 日	時 間	場 所	
10月 3日(金)	9:30～11:30	双葉町	双葉町役場 2階大会議室(議場) 双葉町大字長塚字町西73番地4 ☎0240-33-2111 (代表)
10月 7日(火)	13:30～15:30	茨城県 つくば市	つくば国際会議場 小会議室405 茨城県つくば市竹園2丁目20-3 ☎029-861-0001
10月 8日(水)	9:30～11:30	埼玉県 加須市	キャッスルきさい 1階(多目的室) 埼玉県加須市根古屋633番地10 ☎0480-73-3101
10月14日(火)	10:00～12:00	福島市	サンライフ福島 2階(大研修室) 福島市北矢野目字檀ノ腰6番地の16 ☎024-553-5529
	14:00～16:00	郡山市	郡山市労働福祉会館(中ホール) 郡山市虎丸町7-7 ☎024-932-5279
10月22日(水)	10:00～12:00	いわき市	いわき市労働福祉会館 3階(大会議室1) いわき市平字堂ノ前22 ☎0246-24-2511
	14:00～16:00	いわき市	復興公営住宅勿来酒井団地(集会所) いわき市勿来町酒井青柳8-2 ☎0240-33-0125 (秘書広報課)
10月29日(水)	10:00～12:00	白河市	白河市立図書館 地域交流会議室(中会議室3) 白河市道場小路96-5 ☎0248-23-3250

【問い合わせ先】 秘書広報課 ☎0240-33-0125

## 国への要望活動

8月7日、伊澤町長は岩本久人町議会議長と共に、復興庁と経済産業省、環境省、自民党東日本大震災復興加速化本部、公明党東日本大震災復興加速化本部に対して大熊町と合同で二町の復興に向けた要望活動を行いました。

二町の要望に対して復興庁の伊藤忠彦大臣は「緊張感を持って復興・再生に取り組みたい」と述べました。

### 要望活動(抜粋)

- ・特定帰還居住区域の避難指示解除に向けた見通しや取組方針を具体的に示し、除染やインフラ復旧の実施
- ・第2期復興・創生期間以降の財源確保
- ・除染土壌の最終処分地選定と全国的な理解の醸成



## こ 長塚跨線橋開通

8月1日、福島県が整備を進めてきた県道井手長塚線・長塚跨線橋の開通式が行われました。式典には伊澤町長が出席し、整備関係者に御礼を申し上げるとともに、跨線橋の開通により今後の交流人口の拡大が進むことに期待を寄せました。

県道井手長塚線は、常磐双葉インターチェンジと国道6号を結ぶ全長5キロを整備する計画で、今回の供用開始により全体の2.9キロの通行が可能となりました。



また、長塚跨線橋には今年1月のはたちの集いに参加した新成人が綴った双葉町の復興への想いがプレートになって飾られています。

開通式に参加した齊藤あづさんは「震災当時は5歳で町の記憶は薄いですが、私のメッセージが跨線橋に飾られて感慨深いです」と話していました。



伊澤町長による式典挨拶



齊藤あづさんと跨線橋に設置されたプレート



復興への想いを寄せた新成人

## 双葉町・京丹波町子ども交流事業

8月4日から6日まで双葉町の友好町である京都府京丹波町から高校生2人と中学生6人が双葉町を訪れ、双葉中学校の生徒と交流を深めました。

この交流事業は平成9年から始まり、お互いの町を隔年で交互に訪問し、交流を育んできました。

初日は両町の生徒が双葉町役場に集まり、開会式が行われました。双葉中学校3年の大橋薫和さんが「最高の思い出を作りましょう」と呼びかけると、京丹波町・須知高校2年の仲林蒼空さんが「再会できて大変嬉しく思っています」と応えました。

その後、京丹波町の生徒たちが伊澤町長や京丹波町の畠中源一町長と意見交換を行い、生徒からは「町の復興で一番大切にしていることは何ですか」などの質問に対して、伊澤町長はひとつひとつ丁寧に答えていました。

翌日は、いわき市内の施設に会場を移し、交流会が行われました。双葉中学校の生徒はイギリス訪問やSDGsの取り組み、防災教育など学校生活の取り組みを説明しました。京丹波町のメンバーからは町の名所として京都府唯一の鍾乳洞がある点やイチゴや黒豆が特産品であることが紹介されました。この日はバーベキューも行われ、なごやかな雰囲気でお睦交を深めていました。



## ～ 夢と希望のある「学び」へ～

2学期がスタートして1週間が経過しました。連日のように猛暑が続く中、学校生活においても、熱中症の予防対策をはじめ、感染症予防対策を継続的に進めて参ります。ご家庭においても予防対策に取り組む生活を心掛けて欲しいと思います。

さて、2学期は校内行事を含め、対外的な行事も多く計画されています。学習面はもちろん、主体性をもって多くのイベントにチャレンジ精神で取り組んで欲しいと思います。

### 第8回 双葉郡小学校絆づくり交流会

7月29日、大熊町立学び舎ゆめの森において、第8回双葉郡小学校絆づくり交流会が開催されました。双葉郡内の小学生が一堂に集い、様々な趣向を凝らしたイベントに取り組みました。また、過去の交流会に参加した中学生・高校生の皆さんにも企画・運営のサポートをいただき、笑顔あふれる1日となりました。



### 第10回 双葉郡中高生交流会 FUTABA 1DAY SUMMER SCHOOL

8月1日、福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校において、双葉郡中高生交流会が開催されました。教育による絆づくりの取り組みの一つとして、町村や世代の垣根を越えてつながることを目的としています。各界でご活躍されている皆さまを講師として迎え、双葉郡の中・高校生の皆さんとそれぞれのテーマに沿った探究や意見交換などで交流を深めました。



### 双葉町・京丹波町子ども交流事業

8月4日から6日、友好町である京都府京丹波町と双葉町の子ども交流事業を開催しました。今年度は、京丹波町の中学生・高校生8人の生徒の皆さんが、双葉町といわき市錦町の町立学校を訪問しました。4日の開会式では、伊澤史朗町長、畠中源一京丹波町長を交えて両町の生徒たちと意見交換を行いました。2日目は町立学校のあるいわき市へ移動し、それぞれの町、学校の様子を互いに発表したり、レクリエーションやバーベキューをしたりするなど、友好の絆を深めることができました。



双葉町教育委員会教育長 館下 明夫



## ふたば幼稚園だより

### 夏野菜を使ったアイス作り



園児たちが自分たちで育てたトマトを使ってアイス作りを行いました。

5月に苗を植え、水やりをするなど心を込めて毎日その成長を楽しみに見守ってきました。

そのトマトが収穫となった時に「トマトを使ってアイスを作ってみようと思うんだけどどうかな？」と提案すると、ちょっとトマトが苦手な園児は「トマトのアイス〜？」と戸惑っている様子でしたが、材料を伝えると「おいしいそうだからつくってみよう！」と張り切って調理を始めました。

今回のアイスは、包丁も火も使わない簡単なレシピを参考に、園児たちは初めて使う調理器具にびっくりしながらも、協力して最後まで上手に作る事ができました。

凍らせている間も「もうカチコチになったかな」と何回も聞くくらい楽しみにしていたのです。実食してみると何とも言えない表情でしたが、おいしく食べる事ができました。



【問い合わせ先】 ふたば幼稚園 ☎0246-88-8084

## と広場

子をお伝えします～

## 長塚二行政区

## 総会・交流会



7月6日・7日、令和7年度長塚二行政区の総会・交流会をいわき湯本温泉において開催いたしました。

総会及び交流会には昨年よりも多い19人の方々に参加をいただきました。

総会に先立ち東日本大震災及びその他災害関連で亡くなられた方々に対し、黙とうを捧げ開会いたしました。

公私共にお忙しいなか、伊澤史朗町長、平岩邦弘、森隆史両副町長にも出席いただきました。

区長あいさつ後、議案等審議の前に、伊澤町長からごあいさつを兼ねて「町の復興状況と今後の振興及び課題等」について説明をいただきました。

続いて協議事項に入り、区長を議長に指名し、提出議案の審議を行い、令和6年度の事業報告及び会計報告、令和7年度の会計予算について参加者の承認を得て終了しました。

その後、協議事項として2つの案件について審議し、活発な意見交換が行われました。

引き続き、交流懇親会にも、伊澤町長、平岩、森両副町長にご参加いただき、永井幸雄さんの乾杯の発声により懇親に入りました。

久々に参加された方もあり、皆さんの近況や思い出話に時間も忘れて大いに盛り上がりました。

その後、二次会に席を移し遅くまで、交流・懇親を深め合い、名残り惜しくも会を閉じました。

翌朝は、朝食後、次回も開催することを約束し、再会を楽しみに、それぞれ帰路につきました。

今回、出席できなかった皆さんも、次回ぜひ参加いただけますようお願いしたいと思います。

長塚二行政区長 武藤 康広

## 細谷行政区

## 総会・交流会



ほぼ全域が中間貯蔵施設エリア内で帰還困難区域となり住民が長期避難中の細谷行政区総会をこの程（6/21・22）相馬市の風光明媚な県立公園松川浦を望む民宿で開催し、県内外から参加した細谷住民が、再会を喜び近況等の嬉しい会話、さらには避難前の思い出話など、尽きない時間を共有しました。

懇親会には、伊澤史朗町長、平岩邦弘副町長、森隆史副町長が参加され、伊澤町長の挨拶では、町の状況や今後の復興への取り組み案と丁寧で分かりやすく希望の持てる報告がありました。

恒例となっているビンゴゲームで一喜一憂し、最後の一人まで景品があり、笑顔が絶えず大いに盛り上がりました。

翌朝、名残を惜しみながら互いの更なる健勝と次回の再会を誓い、それぞれの避難先への帰路につきました。

細谷区長 田中 信一

上羽鳥地区

総会・交流会



6月7日、8日石川町の母畑温泉「八幡屋」において、羽鳥行政区（上羽鳥地区）の総会・交流会を開催いたしました。県内外の避難先から29人の方々が参加し、来賓として伊澤史朗町長、平岩邦弘副町長、森隆史副町長に出席をいただきました。

総会では、冒頭に物故者への黙とうを捧げ、林和男区長のあいさつの後、伊澤町長よりあいさつを兼ねて「双葉町の復興状況や今後の取組状況」等について、お話をいただきました。引き続き、双葉町と環境省福島地方環境事務所の職員による上羽鳥地区の「基盤整備事業」、「特定帰還居住区域における除染・解体のスケジュール、仮置場の今後の見通し」に関する説明を受けました。質疑の時間も設けられ、皆さんからの活発な意見が交わされたところでした。

次に議事日程に入り、松永正敏さんを議長に選出し、昨年の事業経過報告、会計報告を審議し、原案のとおり承認されました。また、地区の総会・交流会の在り方についても意見が交わされたところでした。

交流会では、平岩副町長の乾杯のご発声で始まり、久しぶりの再会に故郷の昔話や夢のある取組みなど、それぞれの思いに話が弾み、本当に楽しみにしていた時間だと強く感じました。

二次会は、希望者により場所を変えて行われ、カラオケで皆さん自慢の歌を披露し、なお盛り上がったところでした。

翌朝は、フロント待合席で別れを惜しみながら次回の開催を約束して散会となりました。

羽鳥行政区長 林 和男

目迫地区

再会の集い



7月12日櫛葉町にて「第10回目迫再開の集い」を開催しました。来賓として伊澤史朗町長、平岩邦弘副町長、森隆史副町長に参加いただきました。

総会では伊澤町長より町の復興状況について説明いただき、共同墓地の樹木伐採や三字地区の農地や目迫公民館の解体などに関する状況報告と確認が行われました。

懇親会は笑顔と懐かしい話題で大いに盛り上がりました。

目迫地区は現在除染が行われており、完了後について改めて皆さんと意見を交わす機会となりました。

目迫組長 伊澤 郁夫

## 双葉町行政区長会の視察研修を終えて

東日本大震災から14年が経過した今、他地域の復興状況を視察するため、7月1日・2日に双葉町行政区長会の夏季研修会を開催し、区長15人が参加しました。

初日は宮城県美里町にある次世代型植物工場「美里グリーンベース」を視察しました。この工場は㈱舞台ファームが令和3年10月に竣工したもので、土耕栽培により1日4万株のレタスの出荷能力を誇ります。

隣接地には営農型太陽光発電施設の設置計画があり、電力は工場で使用し、太陽光発電設備の下で稲作を行うとのこと。

2日目は、宮城県大衡村の工業団地にあるトヨタ自動車東日本㈱の工場見学と、隣接するトヨタ系列の農業生産法人㈱ベジ・ドリーム栗原第3農場を視察しました。

トヨタ自動車東日本㈱は東日本大震災の復興を目的に平成24年7月に3社が合併してできた会社です。生産工程などの説明を受けてから、清潔で整然とした工場内を見学しました。工場ラインでは名高いトヨタ方式が随所に見られ、改善提案などにより効率化とコスト削減及び安全が確保されていると感じました。

工場の隣にある㈱ベジ・ドリーム栗原第3農場は、令和4年1月に竣工された日本最大級のパプリカ農場で、養液栽培で年間315トンの生産量を誇ります。特徴は、隣接する工場で発生した廃熱を冬場の夜間暖房に使用し、超省エネ温室により放熱を極力防ぐことで、暖房コストを削減している点です。これは、トヨタ関係各社で取り組む東北復興促進活動の一環で、農商工連携モデルとして持続可能な新たな農業を実践中とのこと。

双葉町中田地区に、令和9年4月の栽培開始を目指してトマトの養液栽培施設が整備中です。今回視察して気付いた点は、自動化が進んでも、やはり人員の確保とあらゆる工夫を組み合わせることにより、効率化とコスト削減を行い競争力をつけることが重要だということです。最後になりましたが、今回の視察にご協力いただきました各社様には、ご丁寧な対応をいただき誠にありがとうございました。

双葉町行政区長会 中田行政区長 井戸川 弘幸



9月は防災月間です。

## 栄養レシピ

近年は災害が多く発生しています。

今回は火や調理器具を使わず、備蓄食材を使った簡単レシピのご紹介です。

### 豆腐と穂先メンマの中華和え

#### 材料（2人分）

- ・豆腐（100g）
- ・味付き穂先メンマ（80g）
- ・キュウリ（1本/100g）
- ・うま味調味料（5振り）



#### 作り方

- ①きゅうりをポリ袋に入れて、食べやすい大きさにたたき割る。（たたききゅうりの要領で）
- ②うま味調味料をふりかけ、軽くもむ。
- ③メンマを①に加え、全体が混ざるようによく和える。（太めのメンマは食べやすく切る。）
- ④水気を切った豆腐を、スプーンで一口大にすくい、ざっくりと混ぜ合わせる。



- ・メンマの他に、ザーサイやモズク酢、味付きメカブなどの味付き加工食品と一緒に和えると栄養バランスがアップします！

### 簡単に調理ができるように、日頃から食品の備蓄を意識してみませんか？

- ①電子レンジや湯煎など温めて食べられる冷凍食品を備蓄
- ②湯煎して温めるだけの煮魚や野菜などのお惣菜を冷蔵庫に備蓄  
たんぱく質やビタミン、ミネラルなどの栄養が補え、調理器具を洗う手間が無く節水にも。  
お好みの食品を、カセットコンロやボンベと一緒に備蓄しておけば、“もしも”の時に備えられます。



## 食生活改善推進員活動のお知らせ

9月27日（土）に開催される町民体育祭に“健康づくりブース”を出展します。

「塩味味覚チェック体験」や「1日の食塩目安量の計量ゲーム」など、楽しく体験しながら、減塩について学べる機会です。減塩関連サンプルのプレゼントもあります。

震災後初となる食生活改善推進員の活動再開の取り組みとなりますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください！

【問い合わせ先】 健康福祉課 健康づくり係 ☎0240-33-0131

## 敬老祝金を贈呈します

町民の方の長寿をお祝いして、9月15日現在で満70歳以上かつ1年以上双葉町に住所を有する方に敬老祝金を贈呈します。また、満100歳に達した時点で10年以上、双葉町に住所を有する方に特別祝金を贈呈します。

### 敬老祝金

年齢区分	敬老祝金の額
70歳以上80歳未満	5,000円
80歳以上90歳未満	10,000円
90歳以上	20,000円

### 特別祝金

区 分	特別祝金の額
双葉町に10年以上30年未満の住所を有し、かつ生活の根拠を有する方	100,000円
双葉町に30年以上住所を有し、かつ生活の根拠を有する方	500,000円

【問い合わせ先】 健康福祉課 福祉介護係 ☎0246-84-5200

## 介護用品の購入費を助成します

要介護認定を受け、在宅で生活している方に介護用品購入費の一部を助成しています。

### 対象者

- 1 在宅で生活しており、要介護認定を受けている方
- 2 寝たきりの状態又は排尿・排便に支障があり常時紙おむつを使用し、日常生活のほとんどに支援及び介護が必要な方

### 助成額

毎月3,000円まで \*購入した月で算定します。

### 対象商品例

紙おむつ、尿取りパッド、リハビリパンツ、ドライシャンプー、清拭布、手袋など  
 ※被介護者の清潔の保持に質する用品を対象としております。なお、清拭布、口腔ケア用品を含みます。

### 申請方法

右側のQRコードより申請書をダウンロードの上、健康福祉課に提出するか、下記までお問い合わせください。



【問い合わせ先】 健康福祉課 福祉介護係 ☎0246-84-5200

## 放射線への認識に関するアンケート結果の報告

今回は、令和6年12月に双葉町からの郵便物を受け取れる町民の方を対象としたアンケートの結果を報告します。469名の方にご回答いただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

集計の結果、「町内で暮らすことで、生まれてくる子や孫に被ばくによる健康影響があると思いますか」という質問には、約45%の方が、「思う・どちらかといえば思う」と回答しました。原爆被ばく者二世を対象とした健康調査から、ヒトでは、両親の放射線被ばくが子孫の遺伝性影響を増加させるという証拠は見つかっていません。被ばくによる遺伝性影響があると回答する町民の割合は、年々減少傾向にあります（図1）、令和4年度福島県県民健康調査では、放射線の次世代への健康影響が起こる「可能性は高い・非常に高い」と答えた県民は約22%であり、今回の結果のほうが高い傾向にあります。

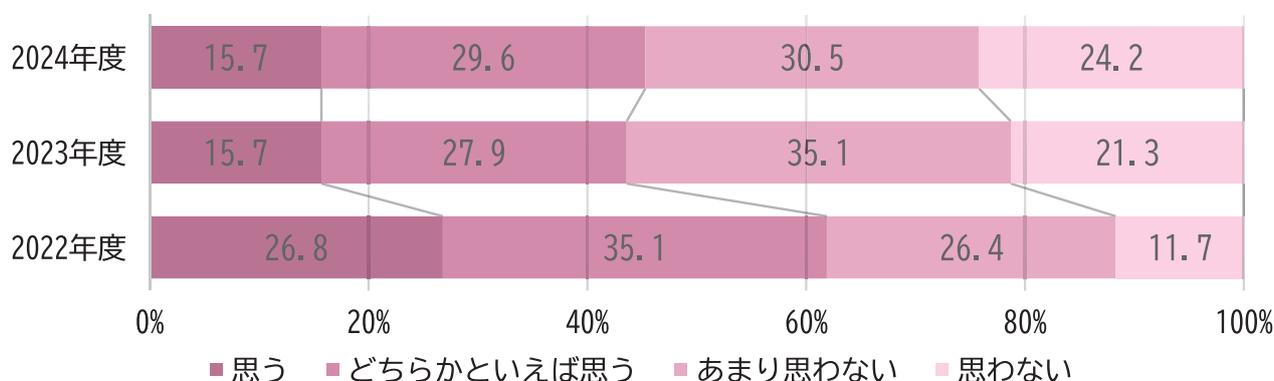


図1. 双葉町で生活することで、生まれてくる子や孫に被ばくによる健康影響があると思いますか。

一方で、ALPS処理水の海洋放出に対する不安は、海洋放出以前と比較して減少傾向にあります（図2）。長崎大学では、今回の結果も踏まえながら、引き続き放射線と健康に関する相談窓口を実施していく予定です。

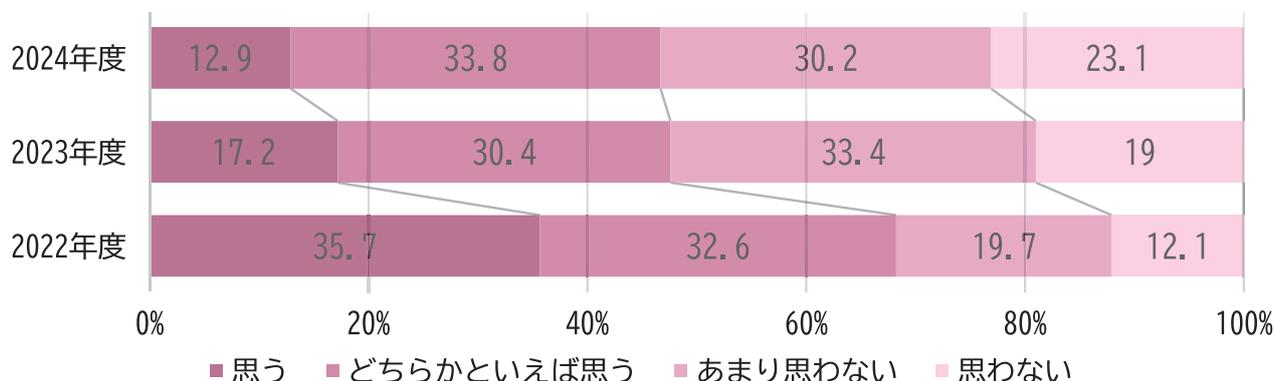


図2. ALPS処理水（トリチウム水）の海洋放出について不安がありますか。

長崎大学は、放射線被ばくと健康についての相談窓口を担当しています。

放射線と健康に関する疑問や質問がありましたら、双葉町役場健康福祉課を通じて、お気軽にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 健康福祉課 健康づくり係 ☎ 0240-33-0131

## 町内でインターンシップがはじまりました

8月16日から9月17日まで学生が双葉町で2つのテーマに沿って活動し、双葉町のこれからのまちづくりを学生の視点から学び、地域の課題解決や新たな価値創出に向けた提案を行います。

地域との交流を通じて町の魅力を探り当て、新たな事業の創出やプロジェクト型の仕事を生み出すことが目的です。

町内での活動には、町民の皆さまのご協力が欠かせません。学生を見かけた際は、気軽に声をかけて応援してください。ご理解とご協力をお願いいたします。

### カフェを交流拠点に。 地域と来訪者が集う新しい居場所を生み出します。



- ・ 下坂 芽さん（横浜国立大学）  
双葉町に住む方の笑顔がつながる空間を共に創れるよう頑張ります！



- ・ 立石 直輝さん（宇都宮大学）  
双葉町で出会う人々と共に、開かれた交流の場を育てていきたいです。



### テーマは「学生の視点×双葉町」地元資源を生かした地域活動を提案します！



- ・ 田中 優衣さん（広島県立広島叡智学園高等学校）  
双葉町の魅力を感じながら全力で取り組みます！地域の方々との出会いを大切に頑張ります！



- ・ 森 タ乃さん（慶應義塾大学）  
色々な知見を得て、目に見える成果を残したいです！



- ・ 喜古 悠愛さん（青山学院大学）  
双葉町の方々の声を直接伺い、実現可能な解決策を模索したいです。



- ・ 塚本 唯佳さん  
（神山まるごと高等専門学校）  
高専生ならではの視点で、暮らしと人のつながりを探りたいです！



## 双葉町社会福祉協議会 ～ 9月 健康運動教室・サロンのお知らせ～

こころとからだの健康のため、運動不足を解消しましょう。参加をご希望の方は、事前申し込みが必要となりますので、下記問い合わせ先へご連絡ください。

### ● 健康運動教室

会 場	開催日	時 間	問い合わせ・申込先
南東北総合卸センター 2階第6会議室 (郡山市喜久田町卸1丁目1-1)	①毎週水曜日 ②毎週木曜日 のどちらか	13:30～15:00	郡山事務所 ☎024-973-5291
福島市老人福祉センター 1階多目的室 (福島市仁井田字八ツ割川原3)	9月9日(火)		

### ● 社協サロン

会 場	開催日	時 間	問い合わせ・申込先
双葉町産業交流センター大会議室 (双葉町大字中野字高田1-1)	9月17日(水)	10:30～12:00	双葉町地域包括支援センター ☎0246-84-6729
白河市中心老人福祉センター会議室 (白河市北中川原313)	9月30日(火)	10:00～11:30	郡山事務所 ☎024-973-5291

## 土砂災害防止法に基づく調査結果説明会を開催します

県では、土砂災害のおそれのある箇所(対象箇所)の調査を実施しており、調査が完了いたしました。調査箇所の近隣に土地所有者、居住者に対し、調査結果を報告する説明会を開催します。なお、対象区域に土地をお持ちの方には別途通知書類を郵送いたします。

### 日 時

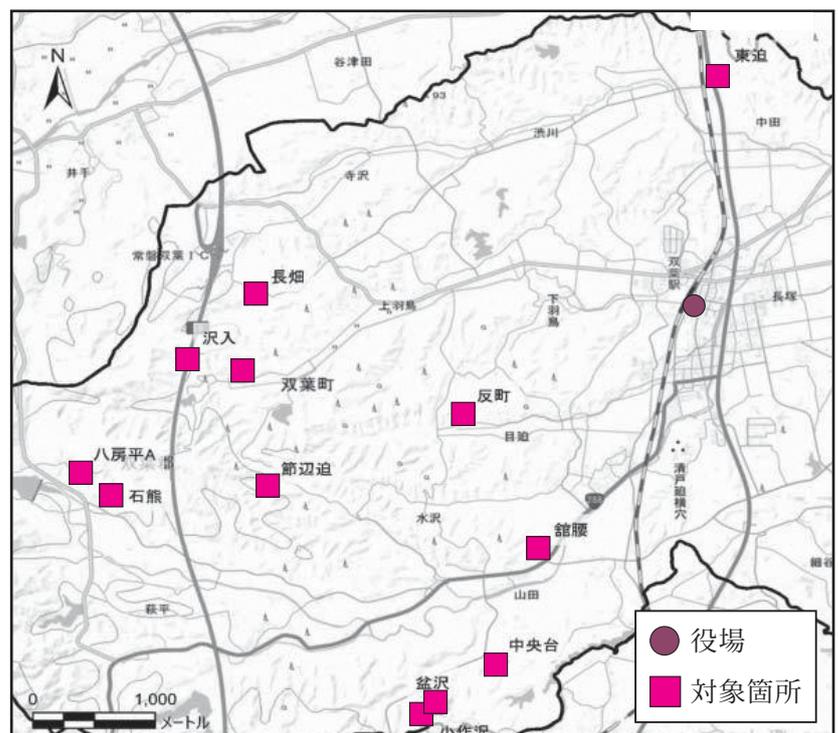
令和7年9月26日(金)  
午後2時から(1時間程度)

### 場 所

双葉町役場いわき支所 2F  
(いわき市東田町二丁目19-4)

### 連絡先

福島県相双建設事務所河川砂防課  
☎0244-26-1260



## プレミアム付商品券 臨時販売日のお知らせ

\\ ○と☆のついている日が販売日です //

休日・平日夜間販売						
10月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

販売場所 双葉町商工会  
(双葉町産業交流センター4階)

販売時間 ☆：午前10時～午後2時  
○：午後5時30分～午後7時

双葉町プレミアム付商品券の  
詳細はこちら →



【問い合わせ先】 双葉町商工会 ☎0240-33-2311

## 福島広域雇用促進支援協議会からのお知らせ

厚生労働省福島労働局委託事業「福島雇用促進支援事業」

**就職相談** 「就活は何から始めるの?」「自分に合う求人をみつけられない」  
あなたの就職・転職の不安を一緒に解決していきましょう!まずはご相談ください。

電話 0120-810-650 (受付時間:平日9時~12時、13時~16時30分)

メール QRコードのリンク先専用フォームから24時間受付中



### 求職者向け「社会人基礎力セミナー」

講師 鈴木修子 先生 日時 9月11日(木) 13:00~15:00(予定)

会場 ハローワーク相双 締切 9月10日(水)

※受講料・テキスト代無料 ※詳細はQRコードよりご覧ください



【問い合わせ先】 福島広域雇用促進支援協議会 ☎024-524-2121

## 「ふたばフードフェス2025」開催のお知らせ

昨年好評をいただいたフードフェスが「ふたばフードフェス2025」として今年も下記日程にて開催いたします。

双葉町内をはじめ、県内外の様々なジャンルの飲食ブースが出店します。ステージイベントも盛りだくさんですので、ぜひ会場にお越しください!

日程：令和7年10月4日(土)、5日(日)

会場：双葉町産業交流センターおよび周辺エリア

※イベント詳細については、ふたばのわ9月号に同封するチラシをご参照ください。

【問い合わせ先】 復興推進課 ☎0240-33-0127

## 環境省 福島地方環境事務所からのお知らせ

### 解体工事について

#### ・特定帰還居住区域の被災家屋等の解体申請について

特定帰還居住区域（鴻草、渋川、長塚、寺沢、松倉、上羽鳥、下羽鳥、目迫、水沢、前田、新山、細谷、山田、松迫、石熊の各一部※）及びその周辺に位置する建物の解体の申請を受け付けています。解体を希望する場合は、下記の解体申請の受付窓口にご相談ください。

※所有建物の住所が区域範囲内か確認したい方は下記の受付窓口までお問い合わせください。

※環境省が除染した家屋等は解体の対象外です。解体される場合は、除染を希望しないでください。

※旧特定復興再生拠点区域の解体申請は2023年8月末をもって締め切りました。

#### 【解体申請受付窓口】 高島テクノロジーセンター

場 所：いわき市東田町2丁目19-3 トークビル1-A号棟（双葉町いわき支所の隣）

受付時間：月曜日～金曜日 8:30～17:15（祝日及び年末年始を除く）

連絡先：☎0120-773-275（フリーダイヤル）

### 片付けゴミについて

#### ・特定帰還居住区域の片付けゴミの個別回収について

家屋の片付けによって生じたゴミの個別回収を行っております。

#### 【片付けゴミ回収申込先】 県中・県南支所 富岡分室

受付時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00（祝日及び年末年始を除く）

連絡先：☎0240-23-7786 FAX: 0240-23-7790

※事業系廃棄物・避難指示解除地域の片付けは受け付けておりません。

### 中間貯蔵施設について

#### ・中間貯蔵施設見学会について

9月12日（金）、13日（土）に中間貯蔵施設をバスで巡る見学会を予定しています。

見学のお申込み・お問い合わせは中間貯蔵事業情報センター（☎0240-25-8377）へ。



#### ・輸送について

中間貯蔵施設双葉工区への搬入状況は下記のとおりです。

7月28日から双葉工区への除去土壌等の搬入を実施しております。

2025年度は、1,092㎡搬入しています。（2015年からの累計は3,956,611㎡）※7月31日現在

※9月20日～9月26日は輸送を休止いたします。

#### ・放射線モニタリングについて

空間線量率の測定により、除染土壌等の搬入による影響は確認されていません。

今後もしっかりと安全対策及び放射線の監視を行ってまいります。

中間貯蔵施設及び周辺モニタリングの結果はこちらのQRコードから確認できます。



【問い合わせ先】福島地方環境事務所 中間貯蔵部 中間貯蔵総括課 ☎024-563-1293

## 消防署

## 9月9日は救急の日

救急の日とは、救急業務及び救急医療に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識高揚を図ることを目的に昭和57年に定められ、救急の日を含む1週間を救急医療週間としています。万が一に備え、皆さんも救急車の正しい利用方法について考えてみませんか。

突然の重い病気やひどいケガなど、緊急性が高いときは、すぐに救急車の要請が必要です。

救急車を呼んだほうがいいのか、自分で病院を受診すればいいのか、判断に困った時は下記相談窓口をご利用ください。



## 救急電話相談 #7119 毎日24時間

急な病気やけがをした際、#7119に電話すると受診や救急車要請の必要性に対して看護師による助言を受けることができます。



## こども救急電話相談 #8000 毎日午後6時～翌朝8時まで

夜間急に子供の具合が悪くなった時に#8000に電話することで、お子さんの様子をお聞きし、家庭で可能な対処法などについてのアドバイスを専門家が言い、必要があれば受診可能な医療機関を案内します。



## 火事と救急は119番

【問い合わせ先】 浪江消防署 ☎0240-34-4111

## 県南双樹会が清掃活動を行いました

7月11日午前9時から白河市にある双葉町県南双樹会事務所の除草作業を行いました。作業には双樹会の会員16人に加え、東電社員7人、そしていわき市内に住む双葉町民の女性の方が「応援に来た」と除草に参加いただきました。

白河市の皆さまのご協力もあり、除草作業は約1時間程度で終わることができ、庭はすっかり綺麗になりました。この日は熱中症が心配されましたが、気温もそこまでは上がりませんでした。参加された皆さまに心から感謝申し上げます。

県南双樹会会長 舘林 孝男



## 国勢調査が行われます

今年は、最も重要な統計調査である国勢調査が実施されます。

国勢調査は、国内にお住まいの人及び世帯の実態を把握し、生活環境の改善や防災計画の立案など、生活に欠かせないさまざまな行政施策に役立てられます。

令和7年10月1日現在、日本に住むすべての人と世帯（外国人の方も含む）が対象です。  
9月下旬より、調査員が各世帯を訪問し、調査書類を配布します。

■回答方法 インターネット、郵送、調査員へ直接提出のいずれか

■国勢調査2025キャンペーンサイト 詳細はこちら →



## 行政相談員による相談所を開設します

毎年9月と10月は「行政相談月間」です。

行政相談は国や県、市町村などの仕事に関して苦情や困っていること、要望したいことなどについて相談に応じ、その解決をお手伝いするものです。

相談は無料で秘密は厳守されます。お気軽にご相談ください。

日時 10月16日（木）13時～16時 行政相談員 武内裕美さん（長塚二）

場所 双葉町いわき支所（1階中会議室）

【問い合わせ先】 秘書広報課 ☎0240-33-0125

### 人のうごき7月分 敬称略

お誕生おめでとうございます

氏名	生年月日	保護者	行政区
岩川 倅歩	7月9日	拓人・安奈	長塚一

お悔み申し上げます

氏名	年齢	死亡日	行政区
齊藤 宗一	75	6月29日	郡山
田中 清一郎	88	6月29日	長塚一
横山 唯市	89	7月4日	長塚一
若林 幸枝	80	7月12日	新山
大森 忠雄	78	7月18日	石熊
官林 建児	75	7月20日	長塚一

了承の得られた方のみ掲載しています。

秘書広報課 ☎0240-33-0125

### 双葉町民の避難状況 （令和7年8月1日現在）

- ・福島県内に避難されている方 3,734人
- ・福島県外に避難されている方 2,644人



### 双葉の風だより

全国に避難されている皆さんから寄せられたお便りの一部をご紹介します

- ・お隣が誰かわからぬ団地でも 出合い語れば 心和みぬ
- ・仏壇の花水替いて語りかけ 今の季節はこの花だだよと
- ・藤棚の蕾膨らみ揺れている 母の日近しを知らせる如く
- ・米不足心配したが豊作で 農家安堵の実の秋を
- ・友来たる 故郷の話は答おけど 旧友の名忘れ 時過ぎたりて
- ・前回の掲載に誤りがありましたので、作品を再掲します。
- ・盆みやげ 背負い振り向き戻る亡息子に 彼岸に待つと 涙で母は

今泉 禮子（長塚二）

※双葉の風だよりでは皆さまからの投稿をお待ちしております。

# 震災後初のスーパー イオン双葉店

8月1日  
オープン



オープン初日は地元住民をはじめ、近隣自治体からも大勢のお客さんが訪れました。お店は町民の皆さんの要望が多かった医薬品やお惣菜、地元の海産物など約4500品目を取り扱います。店舗入り口部分には大屋根が設けられイベントスペースとしても活用します。営業時間は午前8時から午後7時まで。年中無休です。



## 双葉町の今がわかる



X



Instagram



YouTube



Facebook



ふるさと納税

双葉町公式ホームページはこちらから ➡

